

森 町

トンネル長寿命化修繕計画

令和 8 年 1 月

森町役場 建設課

1 計画策定の背景と目的

社会資本は、安全で快適な生活を支える重要な基盤ですが、その中でもトンネルは、一般的に地形的な制約を受ける箇所に建設されており、劣化等により著しい損傷が生じた場合は、迂回路確保などの問題により交通に与える影響は大きく、適切な維持管理が必要とされています。

しかし、限られた財源のなかで将来にわたりトンネルの機能を維持していくために計画的にトンネル補修を進めていくことが全国的に、重要な課題となっております。

本町においても、道路トンネルの管理は重要な課題と考えておらず、トンネルの長寿命化を含めた適切な維持管理を計画的かつ効率的に実施するために「森町トンネル長寿命化計画」を策定します。

2 対象トンネル

本町が管理するトンネルは、町道一宮豊岡線の「黒立トンネル（黒立隧道）」で、森町一宮地区と磐田市豊岡地区との行政境に位置し、磐田市区間も含めた全長 $L=51.06m$ のトンネルです。



黒立トンネル（黒立隧道）

3 老朽化対策における基本方針（計画的な維持管理）

長寿命化修繕計画における修繕は、トンネルの劣化損傷が進み通行に支障が生じてから修繕するのではなく、「予防保全型」の手法を導入し、定期的な点検により損傷の兆候を把握して計画的に修繕していくことで、費用の縮減を図りながら構造物の長寿命化を目指します。

4 トンネル点検

トンネルの損傷・異常を確実に把握するため、道路トンネル定期点検要領に基づく定期点検を5年に1回実施します。また、損傷の早期発見を図るため、通常点検（道路パトロール）や緊急点検を適切に実施していきます。これらの点検で得られた情報に基づき、劣化損傷状況に伴う修繕内容を検討し、効果的な維持管理をめざします。

5 費用縮減の取り組み

1) 新技術への対応

国土交通省の「NETIS（新技術情報提供システム）」や静岡県の「新技術・新工法情報データベース」を活用し、利用可能な新技術の把握と活用に努める。

点検・診断においては、近年開発が進む、点検・計測等の効率化のためのロボットやICT、部材の劣化診断のための非破壊検査技術、及びモニタリング技術等について、効率化が見込める条件等を見極め、活用を検討する。

2) 費用縮減方法

施設の長寿命化を図るためにライフコストサイクルの検討をし、修繕や定期点検において効果が見込まれる新技術を活用するなど、令和14年度までに約1百万円の費用縮減をめざす。

（点検：レーザースキャナー測量、赤外線計測などを活用し、効率かつ効果的な点検の実施）

（修繕：目地充填工法、トンネル背面空洞の充填工法など）

3) 集約化・撤去の検討

集約化・撤去については検討を行い、令和2年度に1つのトンネルを閉塞・廃止した。

残りの1つについて集約化・撤去の検討を行った結果、管理する施設は山間部に位置しており、迂回路は起伏があり、距離は約5km（所要時間10分）であることから、通学でも利用しているなど社会活動等に影響を与えるため、集約化・撤去を行うことが困難である。今後、周辺の状況や施設の利用状況を踏まえて再度検討する。

